

A区分・C区分共通  
No.1(実演芸術・メディア芸術)

令和6年度舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)出演希望調書(実演芸術・メディア芸術 共通)

分野、種目(該当する分野、種目を選択してください。)

分野	伝統芸能	種目	人形浄瑠璃
----	------	----	-------

申請区分(申請する区分を選択してください。)

申請区分	A区分
------	-----

複数申請の状況(該当するものを選択してください。) ※B区分継続団体については、申請企画数から除く

複数申請の有無	有	申請総企画数	3企画
---------	---	--------	-----

複数の企画が採択された場合の実施体制(該当するものを選択してください。)

※複数申請の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません。(グレーアウトされます。)

複数の企画が採択された場合の実施体制	公演の実施時期が重複しなければ、複数の企画を実施可能
--------------------	----------------------------

芸術文化団体の概要

ふりがな 制作団体名	いっばんしゃだんほうじんいっしぎ		団体ウェブサイトURL
	一般社団法人一糸座		<a href="https://isshiza.com">https://isshiza.com</a>
代表者職・氏名	代表理事 田中恵		
制作団体所在地	〒 187-0043	最寄り駅(バス停)	西武多摩湖線一橋学園駅
	東京都小平市学園東町1-7-41 ナカムラビルB1		
電話番号	042-313-5205		
ふりがな 公演団体名	いとあやつりにんぎょういっしぎ		団体ウェブサイトURL
	糸あやつり人形一糸座		<a href="https://isshiza.com">https://isshiza.com</a>
代表者職・氏名	代表・江戸伝内(三代目結城一糸)		
公演団体所在地	〒 187-0043	最寄り駅(バス停)	西武多摩湖線一橋学園駅
	東京都小平市学園東町1-7-41 ナカムラビルB1		
制作団体 設立年月	2005年5月		
制作団体組織	役職員		団体構成員及び加入条件等
	代表理事 田中恵 社員 田中敬三 田中民子 田中敬太 真鍋貞樹	人形遣い:結城一糸 結城民子/ 江戸伝内 制作・美術:田中めぐみ 田中まりな 加入条件:古典糸あやつり人形の技術を継承し それを発展させる意欲のある人間	
事務体制 事務(制作)専任担当の有無	事務(制作)専任の担当者を置く	本事業担当者名	結城民子
経理処理等の 監査担当の有無	有	経理担当者名	田中恵

<p>本申請にかかる連絡先 (メールアドレス)</p>	<p><a href="mailto:acephale-yuki@ace.odn.ne.jp">acephale-yuki@ace.odn.ne.jp</a></p>			
<p>制作団体沿革</p>	<p>2003年 結城座から独立  2005年 劇団設立「江戸糸あやつり人形座」公演事業開始  2011年 劇団設立7周年記念公演  2012年 株式会社「江戸糸あやつり人形座」設立  2014年 劇団設立10周年記念公演  2015年 株式会社「糸あやつり人形一糸座」と座名を改称  2016年 一般社団法人「一糸座」設立</p>			
<p>学校等における 公演実績</p>	<p>1973年～「戻り橋」演目15公演～(独立以前からの公演も含む)  2005年「東海道中膝栗毛/八百屋お七」8公演  2008年「東海道中膝栗毛/八百屋お七」5公演  「中国・北京公演/三番叟/寿獅子/証誠寺の狸ばやし」3公演  2010年「三番叟/橋弁慶/田能久/寿獅子」15公演  「綱館」他 明治学院大学メモリアルホール 2公演  2015年「チェコ・スロバキア公演・釣女/鈴ヶ森/三番叟」3公演  「イタリア・ボローニャ大学/八百屋お七・三番叟・寿獅子」1公演  「イタリア・パレルモ演劇祭/八百屋お七・三番叟・寿獅子」2公演  2016年「釣女/田能久/寿獅子」15公演  2017年「廿四孝/鈴ヶ森」5公演  2018年「三番叟・鈴ヶ森」明星大学シェイクスピアホール 1公演  2022年「廿四孝/二人三番叟/八百屋お七」3公演</p> <p style="text-align: right;">他多数・公演実績有</p>			
<p>特別支援学校等における公演実績</p>	<p>2018年度巡回公演において、八王子特別支援学校でワークショップ・本公演実施。  2021年度巡回公演において、広島県立尾道特別支援学校でワークショップ・本公演実施。  2021年度 小平市特別養護学校、コロナ禍のため、リモートで人形体験と鑑賞体験実施。</p>			
<p>参考資料の有無</p>	<p>申請する演目のWEB公開資料</p>	<p>有</p>		
	<p>※公開資料有の場合URL</p>	<p><a href="https://youtu.be/ZnliW4KN3rg">https://youtu.be/ZnliW4KN3rg</a></p>		
	<p>※閲覧に権限が必要な場合のIDおよびパスワード</p>	<p>ID:</p>		
		<p>PW:</p>		

## 公演・ワークショップの内容

【公演団体名 糸あやつり人形一糸座】

対象	小学生(低学年)	○		
	小学生(中学年)	○		
	小学生(高学年)	○		
	中学生	○		
企画名	楽しい人形浄瑠璃！			
本公演演目 原作/作曲 脚本 演出/振付	<p>○三番叟</p> <p>【以下、全ての演目を義太夫の生演奏で上演します】</p> <p>○義太夫 東海道中膝栗毛(赤坂並木から卵塔場) 原作:十返舎一九 監修:江戸伝内 脚色:江戸伝内(生徒出演部分)</p> <p>○義太夫 橋弁慶</p> <p>○義太夫 伊達娘恋緋鹿子一八百屋お七火の見櫓の場一</p> <p>【公演構成】</p> <p>1, 挨拶</p> <p>2, 三番叟</p> <p>3, 橋弁慶(上演前に解説あり)</p> <p>4, 東海道中膝栗毛(上演前に演目解説 生徒出演あり)</p> <p>&lt;休憩&gt;</p> <p>5, 伊達娘恋緋鹿子(上演前に演目解説)</p> <p>6, 感想発表・質問コーナーなど</p> <p style="text-align: right;">公演時間 90 分</p>			
著作権、上演権利等の 許諾状況	各種上演権、使用权等の許諾手続きの要否	該当なし	該当コンテンツ名	
	該当事項がある 場合	権利者名	許諾確認状況	内部保有
演目概要	<p>【三番叟】</p> <p>五穀豊穡と人々の幸せを願って、天地人の神様にお祈りをする舞。</p> <p>【東海道中膝栗毛】弥次郎兵衛と喜多八は、ヒョんな事から江戸を飛び出し上方に向けて呑気な旅を続けています。日も暮れて赤坂の宿外れの並木道までやって来た二人は、道を間違え卵塔場(墓場)に迷い込みます。お使いで酒を買いにきた小僧と出くわすと、臆病な二人はその子供を一目小僧と間違えて殴ってしましますが、その子が大声で泣き出し、その声を聞きつけたおじいさんがやってきて、弥次郎兵衛の胸ぐらをつかみ、弥次郎兵衛は気を失ってしまいます。目が覚めて死んだとばかり思った弥次郎兵衛の嘆きのシーンが楽しい作品です。軽妙な江戸前の台詞と浄瑠璃でお楽しみ頂きます。冒頭のシーンで村人達の人形を生徒さんに遣ってもらいます。</p> <p>【橋弁慶】牛若丸は、京都五条大橋で毎夜通行人に腕試しを挑み、家来にすべき勇士を探しています。一方、比叡山の武蔵坊弁慶は、五条大橋で通行人を悩ます者の噂を聞き、五条大橋にやってきます。そこで初めて弁慶と牛若丸が会おう有名なシーン。立ち廻りの末、弁慶は牛若丸に打ち負かされ、その若者が牛若丸と聞いて降参し、主従の契りを結びます。</p> <p>【伊達娘恋緋鹿子】お七のいいなつげの吉三郎は主人が刀を盗まれてしまい、それを取り戻さないと切腹しなければなりません。吉三郎を助けるために、お七は盗まれた刀を見つけその刀を吉三郎に届けようと思しますが、木戸が閉まっけて開けることができせん。お七は火事と偽って火の見櫓の太鼓を打ち、木戸を開かせせ刀と届けようと思します。八百屋お七の名場面をご覧ください。</p>			

<p><b>演目選択理由</b></p>	<p>■三番叟:糸あやつり人形の大事な動きが多く含まれる演目で、日本の糸あやつり人形の魅力を良く分かって頂けると幸いです。</p> <p>■東海道中膝栗毛(赤坂並木から卵塔場) 江戸文学の代表的な作家十返舎一九の書いた東海道中膝栗毛。江戸庶民の代表ともいえる弥次郎兵衛と喜多八の軽妙洒脱で歯切れの良い道中記です。江戸で生まれ育った糸あやつり人形に、最も相応しい作品です。</p> <p>■橋弁慶 本格的な人形浄瑠璃を、小・中学生の皆さんに分かりやすくまた、楽しんで観て頂くために、良く知られている作品で、上演時間の比較的短いものを選びました。 弁慶と牛若丸の立ち廻りが見どころです。</p> <p>■伊達娘恋緋鹿子一八百屋お七火の見櫓の場一 八百屋お七では糸あやつり人形ならではの女形の人形の可愛らしさ、繊細さを楽しむことができます。 内容も分かりやすく、人形の義太夫語りと三味線弾きも登場し、より人形の舞台を楽しんで頂けると幸いです。</p>		
<p><b>児童・生徒の共演、参加又は体験の形態</b></p>	<p>東海道中膝栗毛の演目の冒頭で、村人たちが畑仕事を終え、家路に付くシーンが入ります。そこに出てくる村人4人を、小学校高学年、中学生の皆さんに人形を遣って演じてもらいます。簡単な台詞もありますので、ワークショップ終了後、出演が決まった生徒さんは本番までに台詞を覚えて頂きます。公演当日は、出演者と同じ黒衣(くろご)または、緑衣(みどりご)を着用してもらいます。</p>		
<p><b>出演者</b></p>	<p>■人形遣い 四代目結城一糸 江戸伝内(三代目結城一糸) 結城民子 結城まりな 土屋渚紗 眞野トウヨウ</p> <p>■義太夫 浄瑠璃:竹本越孝 竹本綾一 三味線:鶴澤三寿々 鶴澤津賀榮 鳴り物:望月太意三郎</p> <p>■演目解説 永野和宏</p>		
<p><b>本公演 従事予定者数 (1公演あたり) ※ドライバー等 訪問する業者人数含む</b></p>	<p>出演者: 12 名</p> <p>スタッフ: 6~7 名</p> <hr/> <p>合計: 18~19 名</p>	<p><b>運搬</b></p>	<p>積載量: 2.5 t</p> <p>車長: 7 m</p> <p>台数: 1 台</p>

本公演 会場設営の所要時間 (タイムスケジュール) の目安	前日仕込み	無	前日仕込み所要時間		時間程度	
	到着	仕込み	上演	内休憩	撤去	退出
	8:30	9:00～12:00	13:30～14:50	15分	15:00～17:00	17時30分

※本公演時間の目安は、午後、概ね2時限分程度です。

本公演 実施可能日数目安  ※実施可能時期については、採択決定後に確認します。(大幅な変更は認められません)	6月	7月	8月	9月	10月	
					8日	
	11月	12月	1月	計	56日	
	20日	18日	10日			

※平日の実施可能日数目安をご記載ください。

児童・生徒の 参加可能人数	本公演	共演人数目安	4名(糸あやつり人形を遣って参加します)
		鑑賞人数目安	100名～300名

公演に係るビジュアルイメージ  
(舞台の規模や演出がわかる写真)



体育館ステージに舞台を設置します。  
低いステージの場合は、舞台をかさ上げする場合があります。

舞台設置に必要なサイズ

横幅 約8 m

奥行 約4 m



体育館フロアーに、向かって右側に義太夫の舞台を設置します。  
フロアー左側には、鳴り物コーナーを設置します。

舞台大きさ

横幅 4 m 5 0

奥行 1 m 8 0

写真左下

舞台上に人形芝居のためのセットを設置します。

※東海道中膝栗毛生徒出演場面(稽古風景)



写真右下 ※八百屋お七上演の様子



※採択決定後、図面等の提出をお願いします。

【公演団体名 糸あやつり人形一糸座】

児童・生徒の 参加可能人数	ワークショップ	参加人数目安	小学校は高学年推奨(100名程度まで応相談)
ワークショップ 実施形態及び内容	<p>所要時間:約90分</p> <p>1)まず初めに人形についての解説を行います。日本の糸あやつり人形は、どうやって動くのか、糸はどんなところに付いていて、どうやって動かしているのか、生徒さんからの質問にも答えながら解説をしていきます。</p> <p>2)日本の糸あやつり人形の歴史の解説。 日本の糸あやつり人形の歴史について知ること、伝統芸能を知る上でとても重要な事です。分かりやすく、歴史に興味を持てるよう解説していきます。</p> <p>3)人形の体験 代表の生徒さん数名に舞台上がってもらい、人形を遣う体験をしてもらいます。 糸あやつり人形を動かす基本となる、「歩く」という事からはじめ、障害物を超えたり、色々な動作を体験してもらいます。 ※数名の生徒×3回程度繰り返します。 1)～3)を40分程度</p> <p>&lt;休憩&gt;10分</p> <p>4)木がしらの音と共に人形達が登場し、芝居(鈴ヶ森)の中の一部分を上演します。 登場人物は、白井権八という若い侍と、雲助と呼ばれる強盗たちの一味です。 雲助たちは、白井権八を捉えると褒美の金をもらえる事を知り、旅の途中の権八に切りかかります。 この立ち廻りは、糸あやつり人形独特の仕掛けが沢山あり、楽しみながら日本の伝統芸能を知ることができます。</p> <p>5)代表の生徒さんに立ち廻りの稽古をしてもらいます。立ち廻りの際にはツケとキガシラという音が入ります。その音に合わせて上手く立ち廻りができるよう、体験してもらいます。</p> <p>6)立ち廻りでは、色々なしかけの人形があります。芝居のワンシーンを実際のツケとキガシラの音に合わせて、しかけの人形の体験にも挑戦してもらいます。</p> <p>7)最後に、体験できなかった人にも観ていて感じたこと、質問などのコーナーをもうけます。 ※休憩前と同じく数名の生徒×3回程度繰り返して行います。 4)～7)を40分程度</p>		
ワークショップの ねらい	<p>日本の糸あやつり人形は、他の伝統芸能よりも更に観たり体験したりする機会が少ないと思います。巡回公演事業を通して、是非日本の糸あやつり人形の楽しさを知ってもらいたいと思います。人形は、簡単そうに見えて、「意外と重くて自由に動かない！」事に気づいてもらえます。</p> <p>思ったように動かない人形を、生きた人間のように遣う仕事を一生の仕事としている人達がいる事を知り、自分たちがやりたい事も一つの事を達成するには、時間と努力が必要だということを知ってもらえるきっかけになる事を期待したいと思います。</p>		

その他ワークショップに  
関する特記事項等



※人形体験の様子

クラス単位、など少人数でのワークショップでは  
体育館フロアにて解説、体験を行うことも  
可能です。



50名以上での体験の場合は、ステージ上で  
解説、体験を行います。

本事業への申請理由

【公演団体名 糸あやつり人形一糸座 】

**①本事業に対する取り組み姿勢**

糸あやつり人形一糸座は、江戸の流れを継承する座で、代表の江戸伝内(三代目結城一糸)は、結城座という江戸時代から続く人形劇団の十代目結城孫三郎の三男として生まれ、五歳で初舞台を踏み、75歳の現在まで糸あやつり人形遣いとして、意欲的に活動しております。また日本の伝統芸能を未来へ繋げていくために、古典の人形遣いの育成にも全力を注ぎ、海外とのコラボレーションを行うなど、新しい作品創りも意欲的に行っております。江戸伝内の遣う人形は、世界的にも注目されており、2015年10月にはイタリア・ボローニャ大学から招聘され「伝統と現代」をテーマに、講義及びシンポジウム、公演を行いました。ボローニャ大学から講義と実技で招聘されたのは、先日亡くなった市川猿翁丈(当時市川猿之助)以来だという事です。

海外からも称賛される、日本が誇る伝統芸能・人形浄瑠璃を、小・中学校の生徒さんに観劇して頂き江戸で生まれた糸あやつり人形の人形浄瑠璃を知って頂きたいと思っております。江戸の流れを継承する糸あやつり人形一糸座では、人形浄瑠璃本来の、義太夫の語りに合わせて人形を遣う方法と、結城一糸の祖父である九代目結城孫三郎が明治時代に考案した、歌舞伎仕立て(義太夫の語りと人形遣いが台詞を言う)の2つの上演方法でご覧頂きます。

今回申請する糸あやつり人形は、人形と手板と呼ばれる操作盤の間に十数本の糸があり、その糸の揺らぎを利用して日本独特の柔らかい人形の動きを表現します。浄瑠璃と共に育って来た日本の糸あやつり人形は、大作家・近松等の書いた演目にも耐えうるような人形芝居を創り上げてきました。しかし、江戸の糸あやつり人形は、日本国内でも直接観てもらう機会はあまり多くありません。江戸の糸あやつり人形は、繊細で芸術性に富んでいる日本ならではの芸能です。この文化をより多くの方に知ってもらうため、学校に団体が赴き、生徒さんと対面し、生の人形芝居を観てもらう事が重要だと思えます。関西に伝わってきた文楽などでは、一体の人形を3人で遣いますが、江戸の糸あやつり人形は、一人が一体の人形を遣います。同じ人形浄瑠璃でも江戸と関西では大きく遣い方が違います。そういう違いも子供たちに知ってもらい、伝えていく必要があると考えます。

グローバルな世界になればなるほど、私達日本人を形成してきた起源としての日本の文化を知る事が大切になってくるのではないのでしょうか。もちろん外国の知識を得ることは大切です。ですが、その事によって足元の日本を見失う事となつては、本末転倒になってしまいます。小・中学校で公演を行う事で、日本人が創り上げてきた世界に誇れる日本独特の伝統文化・人形浄瑠璃を肌で感じてもらい、海外に負けない文化を日本人が作ってきたことを、子供たちに知ってもらえるきっかけとなる事が重要であると思えます。  
※別添え有り

**②事業を効果的かつ円滑に実施するための工夫**

学校の先生方は大変忙しく、連絡を取り合える時間が限られています。その限られた時間で、連絡を取り合えるよう工夫しています。そして事業の趣旨を理解して頂くよう良くお話しし、時間の取れない時はメールなどで交流し、できるだけ丁寧により良いコミュニケーションを取れるよう心掛けています。

ワークショップの時間を取る事も、学校のカリキュラムの中で調整が難しいようですが、趣旨を良く理解頂いたうえで、巡回の行程を説明し、できるだけ行程の順番に添って日程調整して頂くようお願いしています。そしてワークショップを行う事によって、先生方とも交流ができ、公演に向けて大変協力的に対応して頂けるようになります。舞台機構の問題点についても、ワークショップの際、問題解決できるよう心掛けています。公演当日、生徒たちとの共演のためのリハーサルも、時間を取れないと言われていた事もありますが、プロと同じ舞台で共演する、貴重な機会である事をお話しし、先生方にも生徒の出演を楽しみにしてもらえよう、お話しています。

本事業に対する  
取り組み姿勢、および  
効果的かつ円滑に実施  
するための工夫



リンク先	No.4	【公演団体名 糸あやつり人形一糸座】
項目内容	<p>糸あやつり人形一糸座は、平成20年度～平成26年度、平成29年度～令和5年度の14回に渡り、文化庁委託「文化芸術による子供の育成事業」一巡回公演事業一に採択され、全国の小・中学校において、日本の伝統芸能である、人形浄瑠璃公演を行ってまいりました。</p> <p>この事業で日本中の子供たちに、糸あやつり人形を知ってもらい、世界に誇れる日本の文化を次の世代へと繋いでいくことになればと願っています。</p> <p>TV・ゲームなどで遊ぶ機会が多くなっている現代の子供たちに、演じる側と観る側が交流し一体になる事で、楽しさがより大きくなる生の舞台を知ってもらい、芸術・文化に対する興味を持ってもらいたいと考えています。</p> <p>糸あやつり人形一糸座は、2022年5月、伝統を未来へ繋げるため、三代目結城一糸から四代目結城一糸へと、襲名致しました。三代目結城一糸(江戸伝内)は若手育成にも力を注いでまいりましたが、次の世代へバトンタッチする事で、更に未来へとこの文化を繋いでいく事ができます。また、一糸座の若手人形遣いも多く育ており、三代目結城一糸が手がけてきた若手育成も実ってきています。(三代目結城一糸は、江戸時代に活躍した人形遣いの名人で、一代で終わってしまった「江戸伝内」の名前を継承してまいります。)</p> <p>巡回公演で、日本の文化に興味を持ってもらい、将来日本の糸あやつり人形に携わりたいという子供たちが出てくる事も期待しています。</p> <p>学校公演の始まりは、三代目結城一糸の父(故・結城雪齋)が戦後、四国の高知の方に「学校教育の教材として出演して欲しい」という依頼を受けた時から始まりました。戦後の混乱と荒廃の中、情操的にも、生徒たちの役に立つからとの事だったそうです。それ以後、学校での公演は多くの劇団が参画し、現在まで色々な形で実施されております。学校公演の始まりとなった三代目結城一糸(江戸伝内)の父の思いを受け継ぎ、上質な糸あやつり人形の舞台を生徒の皆さんに届けたいと思っております。</p> <p>令和2年・3年と、コロナ禍で文化を楽しむ機会が殆どなくなってしまいました。文化が途絶えることは、大変悲しい事です。このような状況を経験した今、いかに文化に触れることが必要であるか実感しています。そして文化を絶やす事なく伝えていく事が大切ではないかと考えています。日本の文化を受け継ぎ未来へ託していくために(故・雪齋の信条である温故知新)、この事業は子供たちにとって、なくてはならない事業と感じています。</p>	